

戦争ポスターを使った授業 地域史料と結びつけて

千葉市立蘇我小学校 三橋 昌平

1 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年社会科

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 長く続いた戦争と人々の暮らし

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」における「(サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国には民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。」を受けて設定した。また、「(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること」を受け、本単元では、歴博の戦争ポスターを活用しながら、我が国と中国との戦いが全面化したことや、我が国が戦時体制に移行したこと、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたこと、国内各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、国民が大きな被害を受けたことが分かるようにしていく。また、これらの戦争において、我が国が多くくの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたことについても触れていく。

②単元の目標

- ・日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解する。(知識及び技能)
- ・世の中の様子、代表的な文化遺産に着目して、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え、表現する。(思考力・判断力・表現力等)
- ・日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 博物館との関連

①活用方法 非来館型活用

②活用資料 貸出教材「戦争ポスター」

(4) 指導観

千葉市立蘇我小学校は創立 148 年を迎える学校である。蘇我の地域には歴史的価値のあるものも多く残されており、小学校の歴史学習でおおいに生かしていく必要があると感じる。千葉市は 1945 年 6 月 10 日と 7 月 7 日に空襲を受け、大きな被害が出た。蘇我地域は 6 月 10 日の空襲で多くの人が亡くなっている。この事実は、戦後の地図や福正寺に残る碑などからよくわかり、児童にとっては身近なものであるはずだが、ほとんどの児童は知らないというのが実情である。戦争の学習をするにあたって地域で起きたことと国内、国外で起きていたことを結びつけていくことで、より実感もてる学習としていきたい。そのための手立ての一つとして、歴博の貸出資料「戦争ポスター」を活用しようと考えた。戦争ポスターから日本が戦時体制に移行していったことを実感させたり、アジア地域へ多大な損害を与えたことを理解させたりしていきたいと考えた。今年度 6 年生は歴博への校外学習を行う予定だったが、私は今年度 3 年生の担任なので、歴博に直接連れて行くことができないこと、また新型コロナウイルスにより、学校の校外学習は軒並み 9 月までは中止になってしまった（本来は 6 月に実施予定）。歴博の実践は「来館型活用」と「非来館型活用」があり、コロナ禍を考慮し、「非来館型活用」での実践に取り組んでみようと考え、6 年生のクラスを借りて、上記の戦争ポスターを扱うことにした。6 年生社会科の「長く続いた戦争と人々の暮らし」の単元で実践した。

3 指導計画（7 時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	「蘇我町 1 丁目家並復元図」から、蘇我の町では多くの人が戦争で亡くなっていることを知り、知りたいことについて話し合い、学習問題を立てる。	□蘇我町 1 丁目家並復元図から、学習問題が立てられるよう学習を進める。 ■感想で、戦争について知りたいことや疑問をまとめられたか。 〈ワークシート、主体的に学習に取り組む態度〉
		なぜ、蘇我の町でもこれほどの死者が出るような戦争が起こってしまったのだろう。また、この戦争はどのようなものだったのだろう。	
展開	2	歴博貸出資料「戦争ポスター」を使って戦争中の生活についてわかることを話し合う。	□戦争ポスターを読み取って、戦争中の生活についてわかることを一緒に考えていきながら、話し合いを進め、当時の生活について考えられるようにする。 ■資料から戦争中の生活について読み取った内容を話したり、書いたりできたか。 〈行動の観察・ワークシート、思考・判断・表現〉

	3	満州事変、日中戦争を起 こした理由や戦争の広が りについて調べる。	<input type="checkbox"/> 日本が中国で行った戦争はどのようなもの だったのか、調べる。 <input checked="" type="checkbox"/> 日本が中国各地において戦争を拡大してい ったことを読み取り、理解できたか。 〈発言・ノート、知識・技能〉
	4	日本の戦争の広がりを調 べる。世界の様子につい て調べる。	<input type="checkbox"/> 日本の戦争の広がりや世界の様子を調べる。 <input checked="" type="checkbox"/> 日本は戦場を拡大し、戦場となった地域など の人々に大きな被害を与えたことを理解でき たか。 〈発言・ノート、知識・技能〉
	5	原爆の投下について調べ る。(沖縄戦も含む)	<input type="checkbox"/> 沖縄戦や原爆投下の資料から、わかったこと を話し合う。 <input checked="" type="checkbox"/> 戦争によって沖縄の人々や原爆が投下された 広島・長崎の人々をはじめ、国民が大きな被 害を受けたことを理解できたか。 〈発言・ノート、知識・技能〉
ま と め	6	これまで調べてきたこと から、単元を通した学習 問題への自分の考えを文 章や絵などにまとめる。	<input type="checkbox"/> それぞれの場所や立場における戦争の影響や 当時の人々の生活について、調べたことを整 理する。 <input type="checkbox"/> 戦争が人々に与えた影響について、調べたこ とをもとに友達と話し合って自分の意見をま とめる。 <input checked="" type="checkbox"/> これまで調べたことを比較し、関連付けたり 総合したりして、戦争がもたらす被害の大き さについて考え、自分の考えを表現できたか。 〈発言・ワークシート、思考・判断・表現〉
	7		<input checked="" type="checkbox"/> 日本と中国の戦争が全面化したことや、連合 国軍との戦いによる敗戦、原爆投下などの大 きな被害を受けたことなどを理解できたか。 〈発言・ワークシート、知識・技能〉

4 実践の概要

(1) 地図の色づけから空襲被害について知る

子どもの実態として、空襲の被害について何も知らないということがある。そこで、蘇我町1丁目家並復元図¹から、空襲により死没した家の色づけし、空襲の被害について知ることから始めることにした。色づけをしていくと、蘇我町1丁目の地図がどんどん赤くなっていく。特に説明をせず、色をつけていったため、子どもたちのなかでこれは何なんだろうという疑問がふくらんできた。

そこで、福正寺にある「蘇我町戦災死者の墓」の写真を見せながら、空襲の事実について説明をした。地図を参照しながら説明していくと、子どもたちは自分の家に近かったり、普段から通っているところであったりしたことで驚きが大きかった。学習問題をつくった後、蘇我町の方の証言を紹介した。証言はかなり詳細で、地図上のどこに爆弾が落ちたか、どの家の方が亡くなったかなどが述べられている。子どもたちは地図と証言により、自分たちの町で75年前には戦争があり、多くの被害を受けたということを実感できたように感じる。

○ 1時間目の子どもたちの振り返り

- ・ 私は今回の学習で、蘇我に大きな被害があったと知り、さらに私の祖父の家の近くなのでとてもおどろきました。今度会うときに話を聞いてみたいと思います。今回は蘇我の被害について興味がわいたので、自分でここから近い場所でこのこと以外に被害がなかったかを調べてみたいです。(F.K)
- ・ 蘇我1丁目(私の家の近く)に爆弾が落とされていたと知り、びっくりしました。そして、なぜ、何のために爆弾が落とされたかということも知りたかったです。また、どうやって、70年くらいで今の蘇我の町のように戻ったのかも知りたかったです。戦争の被害の大きさについてもよくわかりました。(F.Y)
- ・ 爆弾が落ちてたくさんの方が亡くなっていたのが色をぬってよくわかりました。爆弾が直撃した家から遠くの方まで被害を受けたこともわかりました。被害を受けた人の後の行動が知れてとてもおもしろかったです。(S.M)
- ・ 蘇我には特に何も無かったと思っていたのでおどろきました。防空壕のつくり、そのときの人のくらしやねらわれた工場についてもっと知りたいです。(S.K)
- ・ 蘇我で空襲があったことが初めてわかりました。地図に赤くぬったときはまともっていて、何をしたのかわからなかったけれど、円の中の数は死んだ人の数と書かれていてびっくりしました。次の時間には原因や人々の生活を詳しく知りたいです。(I.R)
- ・ 戦争で多くの方が死んでいたことは知っていたけれど、蘇我まで爆弾が落とされて亡くなっていることは知らなかったのでびっくりしました。疑問に思ったことがたくさんあるけれど、調べたり聞いたりして知りたいです。(N.Y)

蘇我が空襲によって被害を受けていたことに驚く感想が多くあった。特に自分の家が近かったり、身近な人が住んでいたりする子どもは驚きが大きかったよう

だ。戦争は広島・長崎だけだと思っていたという感想もあった。地図の色づけをしたことで、一気に戦争が身近なものと感じられたことが感想から伝わってくるが、その後の75年でどのようにして現在の蘇我の町になったのかについては理解していない。戦後は、川崎製鉄の企業城下町としての発展と、公害による大きな苦しみ¹¹があり、現在につながっている。また、防空壕や空襲という言葉も知らない子どももおり、補足説明がかなり必要であったことも戦後75年という期間の長さを感じさせた。

空襲の記録証言を紹介したことで、地図の色づけをしたことが生きた。今回は記録証言を当時蘇我1丁目に住んでいた方のものを使用した。証言を詳しく読んでいくと、どの家に爆弾が落ち、どの家の方が亡くなったかということがはっきりと読み取れる。地図と照合していくことで、ぞっとした子どももいたようだ。戦死者〇人というような数字ではなく、どこの誰が亡くなったということを知ったことで、戦争という自分の生活とかけ離れた事実を目の当たりにできたと感じる。空襲で爆弾が落ちた場所は、現在駐車場になっていた。現在の写真も見せ、決してどこかで起きていたことではないということを感じ取れたと思う。

(2) 戦争ポスターを読み取り、当時の生活の様子について話し合う

①戦争ポスターで変だなあ探しをする

前時の学習問題を受けて、2時間目には戦争ポスターから、戦時中の生活の様子について話し合いを行った。戦争ポスターを見て、「変だなあ探し」を行い、疑問点について話し合いながら、生活はどのようなようだったのか想像を膨らませていった。今回は三種類の戦争ポスターを扱うことにした。1時間目を受けて、防空訓練のポスター、節米1割¹のポスター、厨芥を生かせのポスターというように、生活に関連したものを扱った。二人組で相談して、三枚のポスターの中から見たいものを選び、変だなあと思うところを探していった。字が右から左へと書かれていることや、歴史的仮名づかい、旧字体など読みにくいところもありながら、子どもたちは熱心に取り組んでいた。ここでの疑問点をいくつか紹介する(→で示してあるものは子どもの予想)。

防空訓練のポスターから

- ・なぜなるべくひなをしないようにと書いてあるのか。
- ・ランプに黒い布をかける意味は何か。
- ・銃後とは何か。

節米1割¹のポスターから

- ・どのくらいの米が戦争の食料に使われていたのか。
- ・よくかむのは大事だけど、なぜよくかむことが書いてあるのか。
→米をあまり食べることができないから、栄養になるように「かんで」ということなのでは。
→米が少ないからよくかんで食べましょう。米が手に入らないので、米を節約しておきましょう。
- ・なぜお米ではなく、代用食を食べるのか。

- ・代用食はどのようなものか。
- ・なぜ混ぜごはんを食べるのか。
→かさ増しのためではないか。
- ・米の節約一割とはどれくらいか。
- ・なぜ福岡県がポスターを出すのか。

厨芥を生かせのポスターから

- ・なぜ背景にぶたとにわとりがいるのか。
→家畜のえさにするのでは。
→人の残した食べ物をぶたやにわとりに食べさせてむだをなくしている。
→人間の食料が少なかった？
- ・後ろの動物と廃物の関係は何か。
- ・台所から一億円の生ごみが生まれるのか。

②疑問点から当時の人々の生活について話し合う

「変だなあ探し」から出た疑問点について、学級全体で共有する時間を取った。ここでは疑問点を挙げていくことで、それに対する予想についても話し合っていた。全てのポスターを見ているわけではないが、それぞれのポスターのもつ意味がつながるところもあり、他のポスターを見ていた子どもから意見が出ることもあった。少しずつ戦争中の生活について想像し始めていたので、それぞれのポスターから考えられる生活の様子について話し合いを行った。以下は子どもたちから出た生活の様子である。

- ・空襲が身近だった。(普段から空襲がある)
- ・物・米が不足している。
- ・家畜分までは食料が足りない。
- ・ごみとなる物まで活用しようとしている。
- ・食料は少なそう。

③振り返りをする

2時間だけの授業であったので、今回はここまでの学習として、振り返りをした。もっと学習したいことや疑問点についても書くようにし、今後の授業につながるようにした。子どもの振り返りを紹介する。

①今と暮らしの様子が違うことがわかりました。戦争の時代はいろいろな工夫をしていてすごいなと思いました。ポスターも少ない物資の中でつくっていて、そこまでして呼びかけをしたかったんだなと思いました。

(A.S)

②蘇我で空襲があって人々の生活が苦しかったことがわかりました。米やその他の食料などが不足していた戦争の時代に、ポスターで節約などの呼びかけを行っていたとわかりました。(I.R)

- ③ポスターを見て表し方は違うけれど、戦争での暮らしを伝えていることがわかった。物が不足している中で、どのように生活していったのか知りたくなった。(I.T)
- ④昔の人たちは毎日気のぬけない空襲の日々を送っていたと知り、このポスターは誰が作り、はっているのか、その役割を任されている人はちゃんとしているのか知りたいです。このポスターを読まないで生活していた人はいたのか、いたらその人はどうしていたのかを考え、知りたいです。(E.S)
- ⑤訓練では防火や防毒、ひなんなどがあって大変だったということがわかりました。ひなんでは、ひなんするのではなく、なるべくとどまると書いてあってびっくりしました。(O.R)
- ⑥昔は関係の無い人も空襲に巻き込まれ、ほとんどの人が食料を別の物で補う生活をしていて、今ではあまり考えられないことだと思いました。そして、昔の人はこのポスターを見て、しっかりと守っていたのかということに疑問に思いました。(S.Y)
- ⑦今の何でも物のある自体とは違い、戦争の起こっていた時代は節約をし、毎日戦争に備えていたことがわかりました。また、ただのポスターではなく、理由があるポスターだと感じました。(M.K)
- ⑧ポスターがはられるほど食料不足だったり、物不足だったりしたことに驚きました。昔にもポスターがあり、訓練についてや、生ごみの活用法をのせていたことがおもしろいと思いました。(W.Y)
- ⑨ポスターを見て思ったことは、右から左に読むし、昔は戦争ポスターがあったけど、今では戦争がないから戦争ポスターがない。昔の人々は、戦争があったとき身をかき、守っている。米不足(?)だから食料がかかっているポスターがあると考えました。戦争があったのに、よくポスターがかけるなど思いました。(T.M)

①②③の子どもの意見から、現在の自分たちの生活との比較から物が不足していたことや、食料が足りなかったことを戦争ポスターから実感できていることが伝わってくる。⑥の子どものように、当時の人々がこのポスターを見て守っていたのかという意見があるように、当時の生活を想像しようとしていることもわかる。⑤⑧の子どもの振り返りは、戦争ポスターの内容について触れているように、戦争ポスターの中身も子どもたちにとっては興味深いものであり、また、自分たちの生活とはかけ離れていることも伝わってくる。④⑦⑨の振り返りから、戦争ポスターの役割について知りたいと考えていることがわかる。戦争ポスターはプロパガンダとしての役割を果たすために描かれているが、だからこそ物が不足していてもつくられているということが、これらの振り返りから追求していくことができると思う。振り返りが、主に2時間目の学習のことになってしまっていることが少し悔やまれる。2時間通しての振り返りをさせることで、より3時間目以降の学習につながり、なぜ戦争中心の生活になっていったか、理由を考えることができたのではないかと感じた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 2時間の授業にもかかわらず、蘇我の地域の空襲被害について知ることによって、戦争がどこかで起きていることではなく、自分たちにも関係があると実感できた。
- ・ 戦争ポスターを使ったことで、当時の生活について考えることができ、充実したものになった。また、この2時間で戦争ポスターと、蘇我の地図をつなげて考えることができた。

(2) 課題

- ・ 担任ではないことから、単元の成果物などを作品としてまとめきれず、2時間通しての振り返りをすることができなかつたため、子どもの意識の変容がどのようなものであったのか捉えきれなかつた。
- ・ この内容を6月10日に行ってもよいのではないかという意見をもらった。蘇我小学校でこの授業を行うことの意義を考え、来年度以降も実践していきたい。
- ・ 戦争ポスターは他にもたくさんあり、今回扱ったもの以外のポスターをどのような場面で活用していけるかについて考えていきたい。

○今回扱った戦争ポスター（解説は歴博ポスター解説シートをもとに作成）



2 防空訓練（福岡県 昭和期）

「防空」という思想は第一次大戦後に日本に入ってきた考え方だが、第一次大戦の惨禍を経験していない日本人にはなかなか実感として理解できなかった。そこで昭和期に入ると「防空演習」が各地で実施された。資料の正確な年代は不明だが、「銃後」とあるので日中戦争期以降かと思われる。当時九州は中国軍機の空襲可能な距離に入っていた（B29による本土初空襲は中国の基地から発進、北九州の八幡製鉄所を目標とした）だけに、演習も他地域より真剣みを帯びていたかもしれない。



20 節米一割

(日中戦争～太平洋戦争期)

代用食などを摂って米を食べる量を減らし、戦地に送るよう訴えたもの。やがて一割どころの話ではなくなっていく。



12 厨芥を生かせ!

(日中戦争～太平洋戦争期)

厨芥とは家庭から出る生ゴミのことで、背景にあるように家畜のえさとした。わずかなものでも全国的にみれば「一億円」の価値があるなどという語り口に、当時流行の計画経済、統制経済の発想をうかがうことができる。国家が国民の生活のすみずみにまで口うるさく、理屈っぽく干渉していたのである。

i 千葉市空襲を記録する会編（1980）『千葉市空襲の記録』千葉市空襲を記録する会

ii 三橋昌平「なぜ校歌の2番を歌わないのかー地域の公害を考える授業ー」『歴史地理教育』2020年5月号より、地域の公害を考えた授業実践を参照してもらいたい。